

安泉寺ハザード会だより 8.1号

◆7月7日、野呂夫婦は名古屋のウィル愛知という会場で、ある講演を聞きました。以下にその感想を述べます。



◆私たちが聞きに行ったのは「珠洲原発誘致」を止めた、塚本真如（まこと）さんの講演会。彼のことは初めて知りました。

能登の珠洲市の圓龍寺の住職です。安泉寺と同じ浄土真宗大谷派です。

◆東京新聞の記事によると、1975年以来、この地に原発誘致運動が起こりました。

様々な経緯を経て、

2003年、事業は凍結しました。28年間に及ぶ、反対運動の中心的活动をしてきた人が本人です。（写真上）

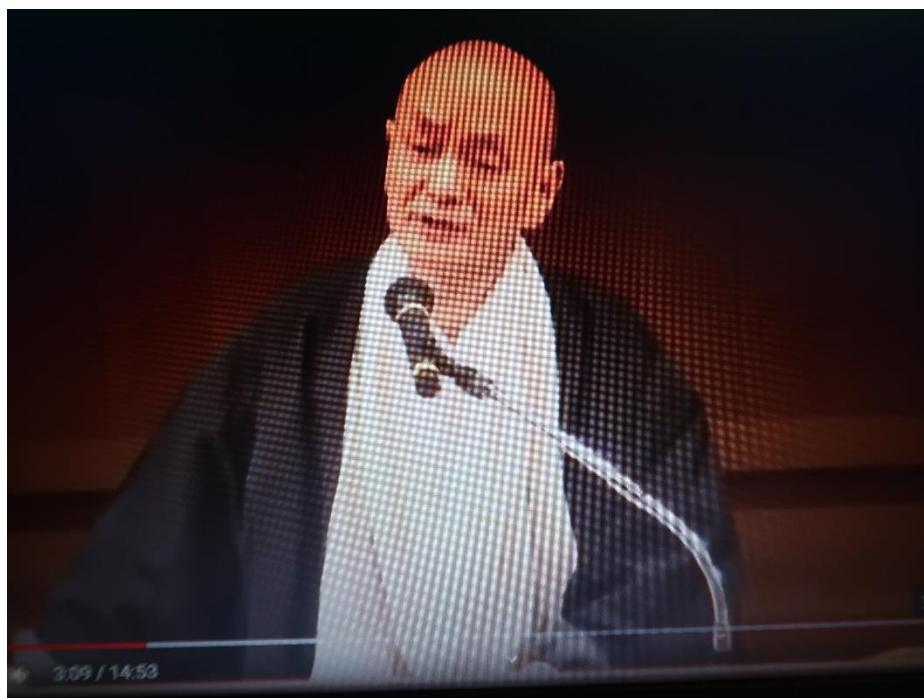
◆父親から、お寺を継ぐときにいわれた言葉、「一番弱い人に寄り添うのが親鸞さんの生き方だ。」彼はそのことを肝に命じ、住職になりました。

◆当時、半農半漁の、決して裕福とは言えない奥能登地方に、関西電力が原発を作ろうと話を持ち掛けました。住民への懐柔策として、バス→新幹線→飛行機へとエスカレートした全国原発視察（宴会）旅行。やがて、莫大なお金をちらつかせ、用地を無期限に借り入れようともしました。

◆そのような誘惑に一切耳を貸さなかった塚本住職。反対派の代表に祭り上げられました。町は真っ二つに割れました。反対派への嫌がらせ。不買運動・無言電話・暴力団を語る郵便物の送付・電話の盗聴。

◆住職は100冊にも及ぶ書物を読み、原発の恐ろしさを知りました。そのことを訴え続け、住民を説得し、運動を推し進めました。

◆2003年、事業は凍結しましたが、その後、2011年に福島原発事故が起きました。この時点で、塚本氏は自分のやって来たことが間違っていなかったことを確信しました。そして、さらに今年の元旦の能登地震が起きました。もし珠洲に原発があって重大な事故を起こしたら、福島への二の舞。関東・東海に放射能が巻きちらされ、甚大な被害が想定されます。



◆福井の小浜市でも、原発反対運動に人生をかけている僧侶がいます。明通寺住職、中嶋哲演師。(写真左)その成果として、小浜市には原発が全くありません。でも、お隣の敦賀は原発銀座。もし、大事故が起きたら、放射能は琵琶湖と伊吹山を越えて、名古屋一帯に襲い掛かるでしょう。

◆私は二人の宗教者の生き方に深く感動しました。塚本住職の自坊はこのたびの地震で全壊しました。でも、

住職は言います。

◆寺の復興よりも、もっと大切なこと、それは住民とともに、地域の再生を最優先すること。私を奮い立たせる言葉です！

安泉寺ハザード会の活動

◆7月の活動は、来たる8月20日、佐織公民館で行われる、虹の会での発表に向けての資料作りでした。発表する原稿の作成と、それに合わせる画像の校正作業です。コンピュータが得意な土方匡紀さんと、文章作りに堪能な宮田侑奈さん、それに写真が上手な中野静梨奈さんたちが入れ代わり立ち代わり、作業を進めてくれました。

◆全般は、数年前からかかわっている、東日本大震災のまとめ、後半は今年起きた能登地震の報告と多岐に及びます。また、今年の10月には立田地区の防災訓練でも、発表することになっています。



◆私たちの目指すことは、災害が起きた時にまず、自助を促すことです。次に避難所を各地に作ることを要望する活動です。ところが、その自助ですが、「分かっちゃいるけど、まだやらない！」という空気が特に東海地方では多く見られます。それはここ数十年、大した災害に見舞われていないから、意識が低いのが原因だと思います。まさにそこをねらって災害はやってきます。「あの時、ああしていれば良かった。」という悔いしか残らないのが現状です。みなさん、準備はしていますか？今、地震が起きるかも知れませんかよ！